

13枚目のCDは「2050年～俺は99」と「それは…ダメ・ダメ」

ハッ尾 順一

今回は、「2050年～俺は99」という歌を創った。菅原洋一が歌う「1990年」にヒントを得て作った歌である（同氏は、今年の5月に92歳で逝去）。ところで、皆さんは2050年の日本を想像できるだろうか。巷では、2050年の日本は、以下のような「超高齢社会」になるといわれている。

- ①100歳以上の高齢者（centenarian）が100万人になる
- ②高齢者の単身世帯が1,000万世帯になる
- ③認知症の人は600万人になる

2050年に1951年生まれの私は99歳（白寿）になっている（余談であるが、昭和天皇は1901年生まれである）。今回の歌は、私自身を重ね合わせた歌でもある。歌詞は、以下のとおりである。

この新曲は、税理士会の神戸支部と大宮（埼玉）支部の研修会のあとの懇親会（ミニライブ）でギターを弾きながら、7曲（アンコール曲を含めて）を歌わせてもらった。先生方にも2050年の自分の姿

を想像してもらいながら、この歌をぜひ、聞いていただけたらと思う。

団塊の世代（昭和22年から昭和24年生まれ）は、2050年にはすべてセンテナリアン（centenarian）



2050年 俺は99 季節は巡り 時は流れる
 親しい友は まだ いるだろうか 福祉国家を夢見ている
 そして 年金は もらえるだろうか
 2050年 俺は99 一人の老人 1,000万人
 オレも 一人で いるだろうか AIロボットは 助けてくれるか
 そして 医療制度は 大丈夫だろうか
 2050年 俺は99 センテナリアン（centenarian） 100万人
 オレは 高齢社会に埋もれながら ベッドの上で 空を見てるか
 そして 消費税は 上がっているだろうか
 2050年 俺は99 認知症の人は 600万人
 オレは 介護の世話になり 夜中に徘徊をしているだろうか
 そして 少子化は 大丈夫だろうか
 99歳の 2050年 あ～あ あ～あ そのときオレは
 何を 夢見ているのだろうか 生きてるだろうか

となっている。私は99歳になる2050年には、100歳以上の高齢者が100万人いるということになる。その光景を想像すると、なんとも不思議な感覚になる。少し安心するようであり、また一方では不安な気持ちにも襲われる。

二枚目の「それは…ダメ・ダメ」は、マニアックな税金の歌である。第1コーラスでは、今回初めて国税徴収法の「第二次納税義務者」が登場する。第2コーラスでは、税金の性質である「非対価性」について歌っている。第3コーラスでは、税務上の「信義則」の適用を取り上げ、最後の第4コーラスでは、脱税に関する「除斥期間」をテーマとしている。この「それは…ダメ・ダメ」という税のマニアックな歌を聞けば、税金の偏差値がアップすること間違いなし。



それは…ダメ・ダメ
滞納者のあなた 税金を取られる 自分の財産が差し押さえられる
あなたは その財産を 手放したとしても
第二次納税義務者が 払います
それは…ダメ・ダメ
富裕層のあなた たくさんの税金を納めて サービスを求めます
税金の その性格は 対価性がないから
税の負担とサービスは 関係ないので
それは…ダメ・ダメ
資産家のあなた タックスマンの言葉を信じて その土地を売りました
あなたには 信義則 適用されないから
譲渡所得の税金を 払います
それは…ダメ・ダメ
脱税をしたあなた 10年前の過ち 今になって償いたいと思います
振り込んだそのお金は 除斥期間を過ぎて
ただの過誤納金になります
それは…ダメ・ダメ それは…ダメ・ダメ

最後に、日本公認会計士協会近畿会では、毎年一回、70歳以上の公認会計士が集う「グラン倶楽部」が開催される。昨年は、大阪ステーションホテルにおいて70歳から91歳までの会員28名が参加された。もちろん、団塊の世代の方も多く参加されていた。

少し先の話になるが、2050年 (centenarian) になった団塊の世代の方々が元気に参加されていることを期待したい。

もちろん生きていれば、私も参加したいと思う。